

## 糞土研究会解散のお知らせと 今後の活動について

2006年に私は糞土師を名乗り、そして立ち上げた糞土研究会は、人と自然の共生社会をつくるのが当初からの目標でした。

私たちヒトは他の多くの生き物を食べ、命を奪って生きていますが、それは自分で栄養を作れないヒトの、“生きる権利”です。そして食べれば出る汚いうんこは、命を奪い、自分を生かしてくれた生き物を汚物に変えた、“責任の塊”です。しかしそのうんこをトイレに流さず野糞をすれば、自然の中では多くの生き物に食べられて、新たな命を育みます。

つまり野糞は、奪った命を自然に返し、人と自然が共生するための“命の循環”を実現するのです。そこから生まれたのが、“食は権利、うんこは責任、野糞は命の返しかた”という糞土思想です。

糞土師活動を始めてからほぼ10年で、うんこと野糞による糞土思想の基本は出来上がりました。その一方で2015年に舌癌になった私は、本気で死に向き合う中で思いがけず、素晴らしいアイデアが浮かんだのです。すでに出来上がっていた糞土師言葉の一つが、カスになったうんこが土に還ることで新たな食(=命)になる、うんこはご馳走です。それと同様に、うんこと同じく皆に嫌われ遠ざけられる死や死体も、土に還せば価値あるものになります。野糞だけでなく死の意義も糞土思想に取り入れれば、より多くの人々の共感を得られるのではと考え、しあわせな死の探求が始まりました。様々な分野の方々との対談から多くを学び、糞土思想をさらに広め深めるために、「対談ふんだん」がスタートしたのです。

すでに50名以上と対談を済ませ、20年からWebで記事の公開を始めました。その中で糞土思想は、いのちを還す野糞と土葬の実践哲学に成長し、それは拙著『うんこになって考える』に結実しました。また、その最新記事「土葬社会が動き出す」では遂に、土葬によるしあわせな死の実現が見えてきたのです。しかしその裏ではこんなことがありました。

糞土研究会の立ち上げから10年間は、先ずは糞土思想を創り上げようと、私は多大な時間と労力を会の運営に充てていました。しかし、しあわせな死の探究は生半可なことではできないため、研究会の運営を他の人に委ねて身を引きました。ところがそれが仇になり、人と自然の共生社会を目指すという大きな目標はいつの間にか影を潜め、気が付けば会員数も大幅に減少し、まるで「野糞同好会」のようになっていたのです。糞土研究会こそ糞土思想の原点ですから、本来なら会の再建を目指すべきでしょうが、今の私にはその余裕がありません。

舌癌の後遺症に加えて、少し前から歯が次々に欠けてボロボロになり、とうとうまともに食べられなくなってしまいました。しかし入れ歯をするなど一切の治療を断っています。というのは、地球温暖化でも地球規模のマイクロプラスチック汚染でも、現在の破滅的な環境

破壊は、自然の摂理に反した人間中心主義による開発が原因です。それを改善し、人と自然が共生するには豊かな環境の再生が欠かせません。だから私は人間中心主義を批判し、自然の摂理に沿って自然のままに生きて死にたいのです。つまり野生動物と同じように、喰えなくなれば死ねばいいと腹を括ったのです。だからこそ最期までの貴重な時間を、野糞と土葬で完成した糞土思想を広めるために、最大限有効に使おうと決めたのです。

ということで、組織としての再建は止めて、糞土研究会は解散することになりました。とは言え、2010年から続いている会のホームページ「ノグソフィア」は、これまでの糞土研究会の歴史が詰まっているし、講演会の依頼などの窓口にもなっているため、存続することにしました。というよりも、新たな糞土思想をより強く広めるために、内容を刷新して活用したいと考えています。

新生ノグソフィアを、よろしく願いいたします。

2026年2月 糞土師：伊沢正名